

令和元年(2019年)12月11日

教育政策課

働き方改革検討委員会の検討経過について

1 日時

令和元年(2019年)11月25日(月)午後1時30分~午後3時30分

2 場所

水前寺共済会館グレース 1階 芙蓉

3 出席者

5ページを参照

4 説明

別紙(A3)資料の内容に基づいて説明

5 主な御意見

(1) 勤務時間の適正管理等について

- ・ 勤務時間の適正管理は業務の中身、負担など管理が難しいところ。まずは時間を見ていくしかない。時間を減らすというところありきだと、本来担うべき業務をきちんと果たしえない。始業前から業務についているのにタイムカードを打刻させないで労働時間に反映させない、職場の雰囲気として打刻させないなど、目標が先走って適正な管理ができないということがないようにしなければならない。
- ・ 手当が出ている課外、模試・検定(監督)、部活動指導は時間外勤務としないという統一した見解にしていきたいという意見もある。
- ・ 自己研鑽と業務との切り分けが難しいから教員の働き方改革が進まない。

(2) 教職員の意識改革について

- ・ 社会を騒がせているハラスメントやコンプライアンスに関する研修は、企業では開かれているが学校ではあまり行われていない。対外的なトラブルは、その時に使った言葉や行動が拡大していることがある。教職員研修、管理職研修は重要なポイントであり、学んでいただく機会を作っていただいたほうがよい。
- ・ 学校のチーム化。外部の専門人材の連携もだが、学校の中の先生方のチーム力を高める。お互い助け合いながらこれはやめよう、これをがんばろうと決断をして納得をして動く。学校の中の議論とそれを踏まえた進め方ができるかどうかは大事なこと。メッセージをいれていただきたい。

(3) 人材の確保・活用について

- ・ 心理士、スクールロイヤーの方を配置すると、先生方は事実確認や情報の共有、引継ぎ、打ち合わせに時間が取られるので煩雑となる部分はあるが、窓口が変わることによる心理的な負担やトータルで割かれる時間は減る。
- ・ 事務職員のことをプランに入っていない。教職員の時間管理の対象には含まれないが、文部科学省から出されている方針には結構な割合で事務職員の役割が書かれている。例えば、事務職員は整理整頓や職員室のレイアウトなど、生産性に影響する部分を客観的に見て意見が言えるため、改善が進む部分がある。また、学校でのお金の管理、対外的な調整などの面でも期待できる。事務職員も忙しいので、どうすれば仕事を円滑に回せるか聞いたほうが良い。ふさわしい資源に投資(共同学校事務室や研修)した方がよい。
- ・ 学校の働き方改革で効果があるのがスクールサポートスタッフ。学校のことを知らない人より、校長OB、先生OBのような学校のことをよくわかっていらっしゃる人の方が、先を見て手立てをしてくださる。先生方も自分の仕事を切り分けて考え始めると段取り力が高まってくる。予算をかけて配置する意味があるのでご検討いただきたい。
- ・ 地域をよく知る、核になる方をスクールコーディネーターとして学校に配置するなど、地域の方々を学校の足りない部分に充てると、負担が軽減される。予算がつけばと思っている。

(4) 業務の削減・効率化について

- ・ 長期スパンで考えるとICT活用が最も削減に有効。予算枠が大きいので、単年での達成は難しいため、スケジュールについて検討を進めてほしい。
- ・ ICTによる校務支援ソフトができると負担が減る。少なからず一つの地域で統一した校務支援ソフトが使用できるならば異動しても同じソフトが使えるので負担が減る。
- ・ ICTの基盤整備の整備水準が自治体によって差がある。基準はできるだけ同じレベルまで整備を進めるとともに先生方も使うことに意識を向けて積極的になっていただく必要がある。掲示板やメールを見ない先生がいるのが実態。その先生に伝えるためにいろいろな方法をしなければならない(細かい仕事が増える)。必要な情報は責任を持つてみることをしていただきたい。ICT整備と合わせてICTを活用していくことの意識づけをメッセージとして伝えてほしい。
- ・ 子ども達が掃除をするのが難しい学校では、教室の清掃業務を外部委託や障がい者雇用で学校補助員に仕事ををお願いすることにより放課後の時間を効果的に活用。様々な方の力を借りて時間を確保。

- ・ 前回の検討委員会でも話をしたが、県や市町村で会議等が重複。参加すると授業をカバーする先生が負担大。会議の精選、系統化を図ってほしい。
- ・ 給食費の未納については、規則で学校長が責任者と書いてあり、学校の負担を大きくしている。熊本市あたりでは公会計化の動き。各市町村で導入されると負担が小さくなる
- ・ 進路指導への負担。部活動が盛んな中学校は、私立高校から生徒募集に来る。高校、保護者、本人、担任、顧問との面談が夜に実施されるため負担大。入試の文書が簡素化すれば負担が減る。

(5) 保護者等の理解促進について

- ・ P T A ・ 地域との関わりは勤務時間外。縮小しすぎると応援団として応援しづらい部分があるため、バランスを考えて進めていただきたい。
- ・ P T A という言葉を入れてほしい。先生のため目的のためになるのであればしっかり協力していくのでP T A を何らかの形で入れてもよいのではないか。
- ・ 口座振替の説明をしたら、一部の保護者から事務職員がすることはなくなると極端なことを言われた。負担感軽減をあまり前面に出すと教職員が楽をしているという風に受けとられる。多方面から啓発が必要。
- ・ 部活動のガイドラインは出ているが、守るためには年間を通じて土日に大会があるという大きな壁がある。競技団体に働きかけて大会数を減らす要望など、どこがするのか、というのがよく問題になる。校長会レベルで取捨選択したらどうかという意見もあるが、伝統的な大会もあり難しい。

(6) 教職員の健康サポートについて

- ・ メンタル面が大きなものがある。産業医による保健指導の充実など具体的に細やかにしてほしい。

(7) その他(目的、方針、期間、時間外勤務の状況等について)

- ・ 目的に子ども達のためという言葉が入っているのは保護者として感謝。子ども達のために先生方がワークライフバランスをとれるようにということであれば、保護者も協力、全力で尽くすことができる。
- ・ やりがいを持ってやれているのが肝心。満足感、達成感があれば責任感を持って仕事ができる。働き方とやりがいが機能すれば日常の仕事がうまく回っていくのではないか。
- ・ 1年間ですべてを動かすのは大変。項目の内容が濃い。どのように進めていくかスケジュール、工程を伝えるとよい。文部科学省の中教審でも最後に申し上げた。見通しを持った組み立てをしないと市町村や学校がどのタイミングで何をすればよいか伝わらない。

- ・ 高等学校は部活動が最も多い。小学校、中学校では教材研究で時間を割いている。高等学校は9.6H。学年担任業務より少ない。昔は授業で勝負すると言われていたが、今はそれ以外のところで時間を使っている。家に持ち帰っているのかと感じている。教科指導が十分でき、生徒が満足するいい授業ができればと思う。
- ・ 知的障害の学校では週30時間の授業を持つ職員がいる。残った時間で授業準備、生徒指導を行うため、どうしても超過せざるを得ない。
- ・ 勤務時間の上限の目安に持ち帰りの時間はこの中でどのように反映されていくのか。該当する業務がどのように反映するのか。持ち帰った仕事がどの程度緊急性があるのかしっかり確認をいただきたい。

5 今後のスケジュール

時期	内容	詳細
R1 (2019). 11	働き方改革検討委員会 (第2回)	働き方改革推進プラン骨子に係る協議
R1 (2019). 12	教育委員会	働き方改革検討委員会の検討経過を報告
R1 (2019). 12	県立学校、市町村へ意見照会	
R2 (2020). 3	働き方改革検討委員会 (第3回)	働き方改革推進プラン (案) に係る協議
R2 (2020). 6	県議会常任委員会	
R2 (2020). 7	教育委員会	働き方改革推進プラン (案) を提案・決定

働き方改革検討委員会 委員名簿

番号	区分	所属	役職	氏名	備考
1	メンタルヘルス関係者	国立大学法人 熊本大学 大学院教育学研究科	シニア教授 (臨床心理士)	(ウラノ エイミ) 浦野 エイミ	欠席
2	公立学校長	熊本県小中学校長会 (山鹿市立八幡小学校)	山鹿地区会長 (校長)	(クリハラ トヨコ) 栗原 豊子	
3	公立学校長	熊本県公立高等学校長会 (県立湧心館高等学校)	副会長 (校長)	(ゴウ ケイジ) 郷 慶次	
4	公立学校長	熊本県特別支援学校長会 (県立熊本かがやきの森支援学校)	幹事 (校長)	(サカモト ハルミ) 坂本 治美	
5	公立学校 PTA	熊本県PTA連合会	副会長	(ソノダ キョウコ) 園田 恭子	
6	公立学校 PTA	熊本県公立高等学校PTA連合会	会長	(ナツキ ヨシヒロ) 夏木 良博	
7	公立学校長	熊本県小中学校長会 (宇土市立鶴城中学校)	宇城地区会長 (校長)	(フクトミ トシユキ) 福富 俊幸	
8	法務関係者	熊本県弁護士会 (竹中・本田法律事務所)	弁護士	(ホンダ サトシ) 本田 悟士	
9	公立学校 PTA	熊本県特別支援学校PTA連合会	会長	(ミヤムラ ユウイチロウ) 宮村 勇一郎	
10	学識経験者	国立大学法人 熊本大学 教育学部	学部長	(ヤハタ ヒデユキ) 八幡 英幸	
11	企業 関係者	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社	主席研究員	(ヨシヅミ ヤスコ) 善積 康子	
12	市町村 教育委員会	熊本縣市町村教育委員会連絡協議会 (玉名市教育委員会)	会長 (教育委員)	(リュウ クミコ) 笠 久美子	

※五十音順、敬称略

